学校教育目標 ＜やさしく かしこく たくましく＞

欅の子

８・９月号（令和６年８月３０日）
児童数　　５３０名
川越市立大東東小学校

パリ五輪のアスリートに学ぶ

校長　　山本 敦子

学校に明るい笑顔と元気な子どもたちの声が戻ってきました。暑い夏休みでしたが、保護者、地域の皆様のお陰で、大きな事故やケガもなく元気に２学期を始業することができました。猛暑の中、子ども達の安全のためにパトロールをしてくださった地域の皆様、ありがとうございました。

さて、この夏の明るい話題の一つに、パリオリンピックがあります。現在もパラリンピックが開催中です。私は、特にバスケファンというわけではないですが、延長戦までいったバスケ男子のフランス戦などでは、大興奮してテレビの前で絶叫していました。50 センチ以上の身長差があっても、対等に戦う日本選手の姿に感動さえ覚えました。

２学期の始業式では、パリオリンピック・スケートボードの男子ストリートで金メダルを獲得した堀米雄斗選手の話題に触れ、「１％の可能性を最後まで信じた」という言葉をとりあげました。堀米選手は、2021 年の東京オリンピックと、今回２大会連続の金メダル。パリオリンピックでは、１回目の演技の後、３回続けて失敗し、最後の５回目に難易度の高い大技を成功させて、それまでの７位から一気に大逆転劇を見せました。それは、彼のコーチの言葉で「死ぬほど練習してきた」成果ではありますが、同時に、失敗が続いても前を向ける強靭な精神力がその背景にあります。後のインタビューで、堀米選手は、「東京オリンピック後は、地獄のような３年間だった」と明かしていますが、「１％の可能性を信じた」という言葉が印象的です。王者であり続けることのプレッシャーに負けず、どんな状況でも諦めない強い心がつくられるまでには、どんな信条で、どのような経験をしてきたのだろうと興味があり、色々調べてみました。25 歳の堀米選手は、遊びから始めたスケートボードが本当に好きであること、常に「自分はまだこれからだ」というハングリー精神をもっていること、また、本場アメリカで活動しながら様々な挫折を経験して鍛えられてきたことなどが分かりました。

私たち教師は、先行き不透明な未来を生きる子ども達には、どんな力をつけることが必要かということを常日頃考えて教育にあたっています。パリオリンピックのアスリートの姿から、様々な困難にもめげずに、たくましく生きていく力の必要性を強く感じます。長い２学期の学校生活の中で、様々な壁にぶつかることもあるとは思いますが、一つ一つ乗り越えていくことで子どもは成長していきます。教職員一同、子ども達一人一人に「寄り添う」ことを大事にして、２学期も頑張っていきます。引き続き、保護者・地域の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。